

## 梅窓院通信

## 青山



最勝宝塔と調和した趣のある秋の紅葉

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

今号より『浄土宗新聞』の同封を開始させて頂きました。『浄土宗新聞』とは浄土宗の教えや寺院の出来事、お檀家様のお店紹介など、様々な記事が詰まった浄土宗



発行の新聞です。一人でも多くの方に読んでもらいたいという浄土宗の方針で、今年の四月号から無償化となりました。多くの浄土宗寺院から、檀信徒の皆様が届くことになるでしょう。さて、次はご報告が三つございます。まずは京都にある浄土宗大本山の一つ、清浄華院の話です。以前、私が御忌で唱導導師を務めた大本山ですが、その法主(住職)に新たに長野県駒ヶ根市の安楽寺住職、上人が就任することになりました。就任にあたっては私も京都に足を運び、選出の大任を務めました。

二つ目は、梅窓院周辺の飲食店等を紹介する「青山散歩道」を今号から再開致しました。さらに、新たな試みとして檀信徒の皆様が営まれている飲食店もご紹介させて頂ければと考えております。詳しくは本誌八面をご覧ください。

そして三つ目は、工事のご報告です。この三月から六月にかけて第二期の空調工事を行いました。来年の第三期で終了となります。今しばらくのご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。コロナ禍で開催の決定が遅れたことで、事前に寺院から交通規制等のお知らせができず、ご迷惑を掛けたかと思えます。遅ればせながらお詫び申し上げます。

最後に十月開催予定の文化講演会のお知らせです。『梅窓院史』をご執筆頂いた江戸時代の浄土宗史の専門家、宇高良哲先生に梅窓院の草創期に関わる、増上寺第十二世住職の観智国師についてお話し頂きます。ぜひ、皆様お越し下さい。



秋の人生

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

英

文学者の福原麟太郎の随筆に  
教えられて、ロバート・ブラウ  
ニングの有名な詩の節を、私はこの頃  
の生活のモットーにしている。

Grow old along with me!

The best is yet to be,

(我れと共に老いよ、最上のものはまだ  
さきにある)

ともどもに老いて生きて行くこうでは  
ないか、人生いちばんよいものはまだ  
まだこれからさきにあるのだよ――。  
人生の秋というが、今の私の現実はず  
でに人生の冬であろうか。それでも、  
いやそれだからこそ、この言葉に絶つて  
私は一日一日を生きて行きたいと思う。  
できうるならば、その一日一日を自分  
なりに確かなものとして、確認しなが  
ら生きて行きたいと思うのである。

そこですは今年の秋をどのように  
生きて行くか。秋の秀句の中から、  
そのお手本でも見つけられたならば  
……。

此秋は何で年よる雲に鳥 (芭蕉)

この秋やひとり暮しの塩の壺 (菟絲子)

まずは松尾芭蕉の有名な一句。元禄  
七年九月二十六日の作で、十月十二日  
の死去を前にしての老いの衰えを旅懐

に託したものである。下五の「雲に鳥」  
の孤影が、その積み重ねてきた歳月を  
強く深く映している。一方、殿村菟絲  
子は俳誌「万菫」を主宰し、女性俳  
句を高めた人であるが、この句もまた  
下五の「塩の壺」がよく効いていて、  
俳句に捧げたその真摯な生き方を収  
めた孤心がしっかりと置かれている。

天高し身弱くして気負ふかな (蕪城)  
補聴器を持つ人秋を聴きにけり (青畝)

木村蕪城の句は、秋天高きに向かっ  
てひと息気負う意気を、中七の「身  
弱くして」とは反対に強く詠んだので  
ある。阿波野青畝は、秋声・秋の音  
の風韻を補聴器によつて老境の人に漂  
わせたのである。

秋の霜懺悔ここに郷土ふむ (蛇笏)  
やがてくる雪を思へり菊日和 (慧月)  
わが中に道ありてゆく秋の暮 (朱鳥)

以上三句は、秋からやがて訪れる  
冬を予感させる句趣が込められてい  
る。飯田蛇笏の遺句集『椿花集』か  
ら拾ったこの句は、秋の霜を置いたふ  
るさとの土に歩んできた人生の懺悔、こ  
ころが浸みわたる。阿部慧月は、阿  
波野青畝の「かつらぎ」に参加したが、

北海道に生まれて住んだ人であるか  
ら、この句の雪には殊更の思いが込め  
られていることであろう。そして野見  
山朱鳥の句である。たった十七文字だ  
けの句中に、やはりこの人の長い人生  
の道のりを感じることである。ただ季  
語としての秋の暮は、暮秋・晩秋の意  
と、秋夕・秋の夕暮・秋の夕の意の両  
義が含まれていることを付記してお  
く。

さてブラウニングの詩の次の行は、

The last of life, for which the first  
was made.

(それはいのちの終わりである、いのちの  
始まりはそのために作られたのである)  
と記されているから、最上のもの、い  
ちばんよいものとは、人生の最後、死  
のことであるのかもしれない。たしか  
に人生の最初、生まれることは、死ぬ  
ことに導かれて行くものにはちがいな  
い。そのことをしっかりとわきままえな  
がら、私はやはり、いちばんよいものは、  
いちばんよいことは、まだまだこれか  
らさきに、しかもずっとさきに、きつ  
とかならずあるはずであると思ひ決め  
て、一日一日を歩んで行きたい。そして、  
see all nor be afraid (全体を見て、  
恐れるなかれ) という詩の論しに従っ  
て生きて行きたい。(大正大学名誉教授

5・6・7月の  
行事報告



施餓鬼会法要  
5月15日(土)



開山忌法要  
6月12日(土)

盂蘭盆会法要  
7月13日(火)





# 秋彼岸法要 9月23日(木)

午後1時～ 2階 本堂にて

本年の秋彼岸法要は、檀信徒の皆様にお焼香頂けます。

ご先祖様への大切なご供養にもなりますので、宜しければ本堂へお参り下さい。



梅窓院ホームページの  
QRコード

感染予防のため、お席のご用意はございません。また、マスクの着用、手指の消毒・除菌にご協力をお願い申し上げます。

なお、お塔婆は法要後に僧侶にて建てさせていただきます。

法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.baisouin.or.jp/>

## 塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- 同封のハガキにご記入の上、9月15日(水)必着でお申込み下さい。
- 御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。  
(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

## お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混みます。ご来寺の際は感染症対策をした上で電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

## 秋彼岸によせて

～シヨクン・ミーツ・ポーズな物語～(家康公と存心上人)

残暑が続いておりますが、皆様はいかががお過ごしでしょうか。

さて、十月二十三日(土)には、宇高良哲先生を講師としてお招きする文化講演会がございます。宇高先生といえは、『梅窓院史』を執筆いただき、浄土宗を代表する史学の大家先生でございます。

テーマは「梅窓院開山観智国師源誓存心上人について」ですが、「観智国師源誓存心上人」(以下存心上人)とはどんななご僧侶だったのでしょうか。ごく簡単にいえば、三河から江戸に国替えになった徳川家康公と蜜月になり、増上寺を徳川家の菩提寺として発展させたのが存心上人です。家康公が上京して、三河から江戸城に入城される際の存応との出会いは語り草となっております。(出典『浄宗護国篇』)

群衆が家康公を一目見ようと詰め掛ける中、家康公が増上寺門前を通りがかったとき、突然、家康公の馬が進みません。不思議に思った家康公は左右を見回して、老僧(存心上人)を見つけ、どうにも気になって、家康公は左で、あの老僧はどここの寺の何者か聞いてこさせます。存心上人は増上寺の存応であると答えると、家康公は上人に増上寺を案内させた後、「今日はからずも逢うことは宿縁(前世からの深い縁)」と仰って、明朝増上寺で朝食をとる約束をされます。明朝、増上寺に参詣された家康公は存心上人へ仰いました。

「死は人の世の掟にして、誰がこれを免れようか。まして、武士の自分が心に持つべきは菩提の道(悟りを求める道)である。そのために、菩提の道場ななくてはあるまいが、この増上寺をその所としよう。これからは存心上人、私のために教化(教えを説くこと)なさい。このことは大事なので、万事をなげうって取り組むように」

感動した存心上人は涙を流すばかりでしたが、家康公に十念を授与して正式に師檀のちぎりを結びました。

さて、この話を聞いて思い出すのは、お釈迦様が初めて仏教を説かれた初転法輪です。一緒に修行していた仲間から、苦行を止めたことで墮落したと思われていたお釈迦様。しかし、いざお釈迦様がおでましになると、仲間達はおみ足を洗って、もてなさずにはいられなかったそうです。お釈迦様はなおのこと、歴史に残る高僧には遠目にもわかるオーラがあったのでしよう。

まもなく秋のお彼岸を迎えます。動画配信ではございますが、一緒に十念いただければ幸いです。

(法務部／中島真紹 合掌)

## 令和3年度 秋のペット慰霊法要

### ライブ配信のお知らせ

感染予防のため、お席のご用意はございませんが、お焼香頂けます。また、法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

配信開始時間:午前11時～

主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム



## 秋彼岸とは

お彼岸は字のごとく、彼岸(か)のことです。この世から三途の川を渡った岸にたとえられますが、迷いばかりの私たちのいるこの世、此岸(こ)に対し、悟りの世界、浄土という意味でもあります。その向こう岸にいるご先祖さまをご供養するお彼岸、大切にしたいものです。



# 「梅窓院開山 観智国師源誉存上人」 講演者・宇高良哲先生を訪ねて

梅窓院がいつどうやって創建されたのか、秋の

文化講演会は梅窓院を開いた観智国師という僧侶に焦点をあてます。講演者である『梅窓院史』を執筆して頂いた歴史学者・宇高良哲先生を訪ね、埼玉県上尾市のお寺にお話を伺いに行きました。

宇高良哲先生が生まれ育ち、先代住職を務められた十連寺は、上野駅から電車で約35分の上尾駅を最寄りとするお寺です。

八角堂を背景に優しく微笑む宇高良哲先生



「田舎のお寺で檀家数も少なかったこと、巣鴨の正大学におよそ1時間通えたこと、こうした諸条件が重なって、学者として生涯勉強を続けることができている」と先生。

宇高先生は5人姉弟の真ん中、ただ1人の男子。十連寺の後継者として浄土宗僧侶の資格を取れる大正大学へ入学し、史学(日本史学)を専攻されました。高校時代から卓球の選手だったため、同競技の強豪校で知られる大正大学でも、入学早々の1年生からレギュラーで大会出場されていたそうです。

その1年生の時に史学の教授から声を掛けられ、京都の真言宗寺院・東寺の史料整理の一員に選ばれました。東寺では当時教務部の要職にあられた先生の特別な配慮で、一山内の宝菩提院の三密蔵の史料調査が、大正大学に依頼されたのです。そして蔵に収蔵されていた木箱約200箱の史料、古文書や書簡など、白文(漢字だけの文)を読み込む作業に大正大学史学科が携わることになりました。

卓球の練習、僧侶養成の授業や実践、そして京都での史料整理と大変忙しい日々が2年過ぎたある時、宇高先生は「卓球より勉強の方が面白いな。古文書

## 観智国師とは

観智国師(源誉存上人)は1544(天文13)年に武蔵国の由木(八王子)に生まれ、1620(元和6)年、増上寺で77歳の生涯を終えました。1584(天正12)年に増上寺12世住職となり、後陽成天皇から紫衣の勅許を得、家康の斡旋により国師号も授けられました。

## 宇高良哲先生略歴

- 1942(昭和17)年 埼玉県生まれ
- 1964(昭和39)年 大正大学文学部史学科卒業
- 1969(昭和44)年 同大学院博士課程修了
- 1988(昭和63)年 大正大学文学部教授
- 1997(平成9)年 三康文化研究所研究員
- 2003(平成15)年 大正大学文学部長
- 2012(平成24)年 大正大学名誉教授 文学博士

## 宇高良哲先生の主な著書

- 1979(昭和54)年 『江戸浄土宗寺院寺誌史料集成』 大東出版社
- 1982(昭和57)年 『関東浄土宗檀林古文書選』 東洋文化出版
- 1999(平成11)年 『近世関東仏教教団史の研究』 文化書院
- 2004(平成16)年 『梅窓院史』発行
- 2009(平成21)年 『観智国師存心上人伝』 文化書院刊
- 2015(平成27)年 『近世浄土宗史の研究』 青史出版
- 2017(平成29)年 『十連寺の歴史と文化』発行
- 2021(令和3)年 『近世初期浄土宗の群像』 青史出版



をスムーズに読めるようになれば、自分ならではの研究世界が作れるかもしれない」と思ったそうです。以来、60年以上にわたり史料と向き合う日々を続けられています。出版した本を積み上げると、優にご自身の背丈は超えてしまうそうです。

「史料整理に取り掛かる時、教授から『君たちは宝石商の小僧と一緒に、良い史料をとにかく多く読みなさい』と言われました。真言宗の名刹、東寺に残る史料ですから、まさに一級品。この史料整理のおかげで古文書への感覚や感性が養われました」。

こうして学問で身を立てることを決意すると、浄土宗の有力寺院にカメラ一台だけを持って訪問し、史料を見せてもらうフィールドワークに取り掛かられました。最初は若かったため怪しまれたものの、住職が読めない史料を解説し、翻訳もされていたため、「読めなかった史料を読んでくれる上に、色々教えてくれる」との話が広がり、むしろ歓迎されるように

なりました。以来、現在まで浄土宗に限ることなく各種史料を現代語に訳し、寺院や後学の者にとっての貴重な手引きとなる浄土宗内唯一無二の歴史学者になられたのです。

さて、その歴史学で学んだものは……。

「歴史を学ぶと、社会の大きな流れを見誤らないようになります。私は寺院の歴史を学ぶ中で、檀信徒に限らず不特定多数を相手にする寺院活動がこれからは必要だということに気付き、十連寺を地域へ開かれた寺院にしよう」と心掛けてきました」。

この「世の中の流れを読むという点」では、今回お話し頂く観智国師もまさに優れた洞察力と先見力を持つ名僧だったと言えるでしょう。

観智国師は、関東を拠点にして、全国の寺院を庶民統治の窓口とする徳川家康公の政策を理解し、同時にその寺院を預かる僧侶の養成システム(檀林制度)を作る理想に協力を惜しみませんでした。そして、

増上寺と浄土宗に万全の協力体制を敷いたのです。まさに、機を見るに敏な指導者だったという訳です。宇高先生のご専門は、この江戸時代初期の仏教教団で、それらの理解を広めるために今も精力的に活動されています。秋の文化講演会は、浄土宗の現在の基盤を作り上げ、大きな功績を残した観智国師を紐解くとても興味深いものになるでしょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



物腰柔らかな温かい雰囲気  
素敵な十連寺の住職。

### 干菜山光明院十連寺

1394(応永元年、念誉上人を開山として建立される。1613(慶長18)年に徳川家康公が鷹狩りでこの地(今泉村)を訪れ、軒下に菜を十連ほど干していたことから命名した(寺伝より)。徳川家康書状、朱印状などを蔵している。四季折々の植物が楽しめる、地元住民の憩いの場となっている。前住職は37世の宇高良哲先生。38世、住職は良哲先生のご長男である。

## 十連寺由緒



観智国師の絵像(芝・天光院所蔵)。



間廂様など十王を祀る八角十王堂。



敢えて木目を活かすため無垢で仕上げた阿弥陀堂。



大きなお墓から小さな個人墓まで、梅窓院には色々な種類のお墓があります。その墓石を取扱われているのが、茨城県の桜川市真壁町で創業された有限会社真壁石材センター。今号はその真壁町にある工場を訪れました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。

本日は遠く筑

波山の麓まで、ありがとうございます。

◆会社はここ真壁町と南青山(マール商事株式会社)にあります。せつかくですから原石や工場を拝見したかったので真壁町を訪れました。

そうですね、梅窓院さんで見る石はすでに墓石や墓所付属の完成品になっていますからね。

◆お父様が創業者と伺っていますが。

はい。父は変わった経歴で、最初は省庁に籍を置いていたのですが、業界紙の記者となり、取材を続けているうちにご縁があって、岐阜の石材会社に入社しました。その後、独立して真壁石材センターを創業しました。昭和48年のことですね。

◆お役人から記者、会社員、そして創業者ですか。凄い経歴ですね。さんは最初からお父様の会社に入られたのですか。

いいえ。私は総合商社に入社して、駐在に出る直前に父の具合が悪くなり、後を継ぎました。31歳の時です。

◆それも大きな方向転換ですね。

そうですね。元々一生商社で働くつもりでおりましたので、妻は描いていた未来図を書き換えられて当初は戸惑っていたようです。

◆真壁町は関東では有名な石の産地ですね。

はい、御影石の日本三大産地の1つです。かつては石屋さん……つまり原石を加工する会社が2000社ありました。とはいえ、農家が農閑期に石を加工する会社も含めてですが。

◆農家が石屋さんですか!

単刀直入に言えば儲かったからです。ですが今は150社と1割以下に、また国有地の山からの採掘権を持つ会社も15社から5社に減っています。

◆いわゆる従来の、たくさん墓石を使うお墓が変化したからですか。

その通りです。そして人件費の安い中国で加工の方が往復の運賃を入れても安くなるのです。



工場では職人達が世界各国の石を加工している。



会社入口で微笑む 代表取締役と中島住職。

◆そうなのですか。

ですから、ここ真壁町の工場でも加工は一部に限られるようになっていきます。

◆工場と道路を挟んで、多くの大きな石が置いてありますが。

世界から取り寄せた石が並んでいます。インド、ノルウェー、スウェーデン、南アフリカ、中国と世界各地からです。

◆本当に世界中の色々な石がありますね。ところで梅窓院とのご縁は何がきっかけでしょう。

中島住職は石への関心が高く、世界各地へ実際に石を見に行かれています。その一環で住職が中国へ行かれた時に、梅窓院さんへ石を卸していた方から声を掛けられ、ご一緒したのが最初ですね。

◆それからずっとご縁が続いているのですね。

はい、梅窓院さんは墓苑を整備され、色々なお墓を作られているので、その仕事を間接的に当社が関わらせて頂いています。いつも大変お世話になっています。

◆そうだったのですか。これからもよろしくお願ひ致します。ありがとうございます。



優しい笑顔が素敵な  
代表取締役。



日本料理 信成

今号より「青山散歩道」を再開し、梅窓院参道横にある「日本料理 信成」をご紹介します。旧店名は「暗闇坂 宮下 青山店」で、2004年にも本コーナーにて紹介致しました。

竹並木にひっそり佇む隠れ家のようなデザインは、世界的建築家隈研吾氏が手掛けたもの。木の温もりとモ



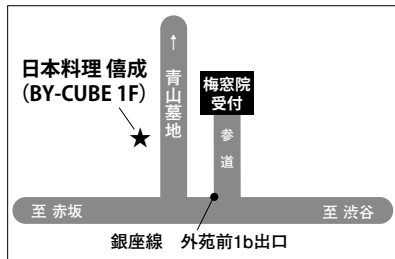
静けさを感じる和の空間では、心穏やかに四季折々のお食事を楽しめます。

ダンな雰囲気や調和しており、店内にいる間は都会の喧噪を忘れさせてくれます。

お店のおすすめランチは季節の味覚を余すことなく楽しめる「信成膳」。四季それぞれの野菜や魚を味わえます。主な材料は島根県長崎県などの生産者から直接仕入れるほどこだわっており、繊細な風味と旬の素材をふんだんに活かしたまさに「伝統的和食」を楽しめます。

もう一品「せいろ蒸し膳」をご紹介します。時期によって一番美味しい国産米を使用している同店ならではのご飯に、牛肉・穴子・蟹・鮑の全4種の具から一つ選べます。

梅窓院のお隣にある隠れた名店で、美味しい日本料理に舌鼓を打ちながら、ゆったりとしたひとときをお過ごし下さい。



短縮営業時間/ランチ 11:30~15:00 (L.O 14:00)  
ディナー 17:00~20:00 (L.O 19:00)

定休日/日曜・祝日

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、店舗の営業時間や提供内容が一時的に変更・休止となる場合がございます。最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。

席数/28席 ※個室は2名よりご利用可能です。  
住所/東京都港区南青山2-24-8 BY-CUBE 1F  
TEL/03-5785-2431



信成膳3,300円  
四季に合った野菜や魚を味わえる、定番のおすすめランチ。



せいろ蒸し膳 2,750円~  
ふっくらしたご飯と厳選素材(全4種)の相性は最高です。

飲食店を経営されているお檀家様へ

「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。詳しくは8面をご覧ください。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

特選

○ 鯰だけ動く床屋の昼下り

◎ 入選

○ 始発バスの椅子ひんやりと走り梅雨

○ 時が来た雲丹を求めて積丹へ

○ 初恋の味しみわたるレモン水

○ 風に鳴る風鈴の朝きたりけり

○ 七夕の短冊は揺れ君恋し

○ 雨近し風鈴窓の内に吊り

○ 水滴をまとひ輝く苺たち

○ 川隔てひまはりの咲くひとところ

○ 風が出てたうもろこしの花ゆらす

◎ 選者誌

○ つと川を離れて空へ夏つばめ

○ ワンポイントアドバイス

歳時記を開いて季語を確かめようとするとき、ひとつの季語いくつかの傍題があることをよく目にします。わたしの場合、俳句をやらな人でもよく知っている言葉たとえば「ひまわり」は「ひまわり」として詠みますが、時に傍題をよく使う人がいます。「ひまわり」の傍題は「日車」「日輪草」「天蓋花」とかいくつかありますが、多くの人はなに?と思うはずで、一般的ではない傍題を使うのには気がつけた方がいい、と考えています。

大崎 紀夫

投句募集

次回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月22日(金)を締切り、令和4年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(青山文化村)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

食は命

食養研究者 武鈴子

血液を浄化する「なす」

今年の夏も京都の友人から水茄子の糠漬けが届いた。その名の通り水分たっぷりの水茄子の漬物は、ノドが渴いたときに食べるとノドの渴きがいやされ、体まで潤うような気持ちになる。

茄子は漬けてよし、煮てよし、焼いてよしで、夢占いにも「一富士、二鷹、三茄子」とあって大吉とされる。また、きのこ料理・ふぐ料理の場合、いっしょに煮ると毒消しになるといわれている。

茄子は夏から秋が旬ですが、とくに秋茄子は種子が少なく実が締まっていて美味しい。「飲食事典」には、俗に「秋茄子は嫁に食わずな」というのは、「秋茄子 ワササの粕に漬けて、嫁にはくれじ棚に置くとともに」から出たので、嫁を憎む姑気質から出た言葉ではなく、『養生編』に「茄子は性寒利、多食すれば必ず腹痛下痢す、女人はよく子宮を傷なう」とあるなどから、むしろ嫁をいたわる老婆心とも解される」とある。要は過食の戒めであり、種子の少なくなることはそれだけ茄子を美味しくする所以である。ワササは早酒の意味なので、鎌倉時代すでに粕漬けにしていたことがわかる。

漢方では、茄子は瘀血(生理的に不要な血液の停滞)を除く働きがあり、生理痛や生理不順などを除去してくれる貴重な食べ物である。乱切りにして水にとり、アク抜きした茄子をニンニクのみじん切りと一緒にごま油で炒め、みそ、みりんで味を調べ、火を止めてから、細切りした青じそをたっぷり混ぜると、簡単でおいしい小鉢料理の出来上がりです。



会計報告を本誌に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願ひ致します。

自 令和 2年4月 1日  
至 令和 3年3月31日  
(単位：千円)

## ■ 護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	80,295	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,502
		法要費(仏具・法衣・線香など)	10,460
墓地管理費として	31,077	保守修繕費(建物)	153,084
		保守修繕費(墓苑・境内)	12,837
梅窓院からの繰入金	111,882	人件費	37,233
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,138
合 計	223,254	合 計	223,254

## 行事予定

## 秋彼岸会法要

9月23日(木・祝)

法要 午後1時～ 本堂

※法要の様子をYouTubeにてライブ配信予定です。

詳しくは3面をご覧ください。

## 十夜法要

11月20日(土)

法要 午後1時～ 本堂

※詳しくは十夜号をご覧ください。

## お檀家さんに伺いました

令和3年 電話取材にて

## 「長年のご縁に感謝を」

先代の頃から梅窓院さんにはお世話になっています。昔は境内を入ると目の前に桜が咲いており、本当に綺麗でした。その時の写真は今でも持っていて、時々写真を見返しては懐かしい気持ちになります。

行事では、修正会や団体参拝など積極的に参加してきたので、お参りに行けない今の状況は寂しいですね。

自由に外出できるようになった際には、ご先祖様に「家族みんな元気ですよ」とお伝えしたいと思っています。

## 展示報告

8月2日(月)～9月5日(日)、「水の波紋展2021」の屋外展示を参道竹林にて行いました。デイヴィッド・ハモンズ氏の作品です。

主催：ワタリウム美術館



発行 梅窓院  
発行日 令和3年9月1日  
発行人 中島 真成  
編集 青山文化村  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 03-3404-8447  
F A X 03-3404-8107  
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題 字 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

## 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

## ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

皆様がこちらを読まれる頃はワクチン接種も終わられている方が多いのではないのでしょうか？ 原稿を書いている今は、ご来寺される方と「次はいつ？」「どんな副反応がありました？」などという話がお天気の話の前に出てきます。私共が接する方の中には健康に不安のある方もいらっしゃるの、本当に気を付けた生活を続けております。皆様と普通にお会いできる日ももうすぐですね。

さて、5月から6月にかけて墓苑内ではカラスに悩まされました。孵ったヒナが巣立ちするまで親カラスが付きっきりで見守っていたのです。(見守ると言うより、廻りをずっと威嚇していました。)やけに怖がりのヒナで木からあまり動かず、親カラスが東・南のビルの屋上からずっとヒナを見守り、近くに人などが通ろうものなら鋭角で飛び掛かってくるのです。そこでポールを立てたり注意喚起したりと、ご僧侶方と職員はずっとハラハラしておりました。

駆除した巣の材料はハンガーなどが多かったようです。ゴミを出す時は気を付けられないですね。

(墓苑部：森)

## 第十七回 梅窓院 文化講演会

う だか よし あき  
講師 宇高 良哲 上人

(大正大学名誉教授・文学博士・十連寺前住職)

日時 10月23日(土)

場所 梅窓院 祖師堂 開場 午後1時15分

開演 午後2時(講演90分)

終演 午後3時30分予定



## 入場無料・先着50名 事前申込制

参加ご希望の方は、申込書を梅窓院受付にお持ち下さい。又は、下記お問い合わせ先へお電話・FAX・Eメールでもお申込みを受け付けております。

## 【お問い合わせ・お申込み】

梅窓院 青山文化村 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

TEL:03-3404-8588 FAX:03-3404-8436 E-mail:bunkamura@baisouin.or.jp

※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

## 飲食店を経営されているお檀家様へ

7面「青山散歩道」コーナーにて掲載にご協力頂ける飲食店を募集しております。檀信徒様で、掲載希望の方、取材・インタビューにご協力頂ける方がいらっしゃいましたら、梅窓院受付もしくは下記の連絡先までご一報下さい。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38 梅窓院青山文化村  
TEL:03-3404-8588 FAX:03-3404-8436 E-mail:bunkamura@baisouin.or.jp